TOKIO MARINE Topics (物流関連速報)

バングラデシュ・チッタゴン港　ターミナル新設計画

TOKIO MARINE NICHIDO
東京海上日動火災保険株式会社

（2017 年 8 月 18 日）

　バングラデシュ・チッタゴン港では貨物取扱量の増加やガントリークレーンの故障により、現在港の混雑が深刻化しています。この混雑軽減に向けて、ターミナルの新設が計画されています。
　今号では、チッタゴン港におけるターミナル拡張計画の具体的内容についてご案内いたします。

1. チッタゴン港拡張計画の具体的内容

地図：Google map

　チッタゴン港はバングラデシュの主要港であり、バングラデシュ海上輸出入の 92%以上を担い、年間取扱高は 77 億円程度と言われています。また、昨年の取扱量は 230 万 TEU 増加し、前年比 16%の増加となっています。
　一方、港の混雑が慢性化しているため、軽減に向けて現在 Laldia Multipurpose Terminal(以下、LMT)の建設が予定されています。
　チッタゴン港のスポークスマンである Alam 氏によれば、LMT は 2022 年までの運営開始を目指しているとのことです。また、LMT の建設及び運営は民間企業に委託予定であり、既に 20 を超える企業が入札に興味を示し、その内 10 数社は国際的企業であるとのことです。
　主として、LMT はバルク貨物向けとなる予定です。これにより現在バルク貨物専用のターミナルを持たず、コンテナターミナルにて荷役を行っているチッタゴン港の混雑を軽減することが期待されています。
　加えて、LMT には、喫水 10m・船長約 200mのサイズの船舶の寄港が可能となる予定であり、3 バースを持ち全長 900mとなる予定の埠頭では、112 万 TEU 分の貨物受入が可能となる予定です。

2. 今後の見通し

　チッタゴン港では LMT に加えて Bay Terminal 及び Potenga Terminal も建設中であり、それぞれ 2023 年、2022 年の運営開始を目指しています。これらのターミナルも民間業者により建設・運営される予定となっており、これらのターミナルの完成は、チッタゴン港の混雑軽減に向けた重要な課題と位置付けられています。

◇◆

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」
http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html